



くろす みつあき
黒巢 益彰さん

税制を分かりやすく解説し、適切な納税をアドバイスする
税理士さんにお話を伺いました。

Q 税理士になったきっかけは。

A もともと数字や数学が好きで、経理は数字がゴールで分かりやすいことから税理士を目指しました。会計事務所、一般企業を経て36歳の時に独立して現在の税理士事務所を立ち上げました。

Q 税理士に求められていることは。

A 税制は年々高度化、細分化しており直近ではインボイス制度や電子帳簿保存法なども

話題になっています。税理士には単に税額の計算をするだけではなく、納税者の状況を理解した上でルールを守るためのアドバイスが期待されているので、税理士自身も時代やビジネス、税制の変化に適応し、日々勉強を重ねた上で最新の情報やサービスを提供することが求められています。

Q 苦労されていることは何ですか。

A 様々な相談者の置かれた状況を把握して、多岐にわたる税制に当てはめていくのは苦労しますが、この仕事のやりがいを感じる場面でもあります。

Q 行政に望むことは。

A 適切な納税を支援するために税理士会として、無料相談会等を開催しているので、行政からも積極的な情報発信をお願いしたいと思っています。



議会広報常任委員会の仕事を紹介します！

市議会定例会などの議会活動をお伝えするため、
「ふじみ野市議会だより」を編集・発行しています。

7名の編集委員が記事を選定し、写真を含む原稿作成や、インタビュー記事の取材などを進めます。なお、一般質問は質問者自身が記事と写真を提出しています。

毎号約6回の編集会議で意見を出し合い、校正を重ね発行となります。そこには皆で一つのものを作り上げた達成感があります。



編集会議で紙面を見ながら校正